

令和6年度学校評価

本年度の 重点目標	1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 安全・安心な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センター的機能の充実 6 仕事の効率化		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や障害の状態に合わせ、「個別最適な学び」を行えるよう、学習内容・学習環境を整え、児童の発達段階に合わせた積極性、自主性、社会性の伸長を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の多様な実態に応じた指導の実践、検証、改善を、保護者、医療、関係機関と連携して進めます。 ・学習のねらいに応じ、学年や学ぶ場の異なる友達と共に学ぶ場を設け、人と関わる楽しさを経験できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に個々の児童の病状や健康面で配慮すべき事項は、対応策、マニュアルを作成し、情報共有の徹底を図り、安全な授業作りに努めます。 ・協働的な学習の実施に当たっては、対面授業や同時双方向型通信での授業を適宜組み合わせ、見え方や伝わりやすさの工夫に努めます。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員としての自己理解を深め、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の自立活動の目標や活動内容の共通理解を図り、学校生活全般で意識しながら支援します。 ・ICT機器を活用し、校内教育、ベッドサイド学級、施設内教育学級で同時双方向型通信による授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 ・集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験ができるよう支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の観点からの生徒の願いや目標、指導内容や支援方法など、教師間での共通理解を図ります。 ・同時双方向型通信での授業がスムーズにできるよう教師間での連携を図ります。 ・集団学習の中で、他者と自分の考えの違いなどに気づき、自己理解につながるよう、生徒の気持ちに寄り添った支援に努めます。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中に成年年齢にさしかかる高等部段階の生徒として、社会自立を意識した教育活動を実践します。 ・生き生きと自信をもって学校生活や社会生活を送ることができるための教育活動を実践します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で生活するのに必要とされる力を考え、個々の課題を高等部教職員で共有した上で、課題解決に向けた取組を学校生活の中で繰り返し行います。 ・経験を積み重ねながら力をつけていくことを重視し、失敗や成功を繰り返すなかでできる「自己の課題に向かう意識」を喚起します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の制約や能力の実態把握を十分に行った上で、高等部教職員が共有し、個々に合わせた適切な支援を行います。 ・成功経験だけでなく、失敗から学ぶ経験も大切にしていきたいため、できるだけ多くのことにチャレンジできるように支援に努めます。
施設内教育	名大 藤田 中京	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の治療状況に合わせた取組ができるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室登校とベッドサイドの切り替えに柔軟に対応できる環境を整えていきます。またインターバル治療やターミナルケアで頻りに自宅に戻る児童生徒には、総合的に考えて最良の学習方法を考えていきます。 ・病棟スタッフ、保護者と密に連絡を取るよう努めます。 ・地元校としっかり連絡を取り、必要に応じてカンファレンスの機会を設けていきます。
訪問教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の一人一人の実態に応じた授業作りをします。 ・病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者間で授業について、PDCAサイクルで検討をすることを繰り返し行い、より良い授業作りに努めます。 ・電話やメール、カンファレンス等を活用し、関係機関等と情報共有できるように多くの機会を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の思いや考えを尊重し、得意なところに着目した対応をします。 ・より柔軟に素早く関係機関等と連携を取り合うことができるような方法や仕組み作りを検討します。
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 ・保護者にとってより有意義になるようにPTA活動を進めます 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや校内掲示、メール配信システムを利用して、活動の様子を具体的に発信していきます。 ・保護者のニーズと要望を踏まえながら、保護者と教職員で連携し、PTA活動やPTA研修会を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動が生き生きと伝わるよう、写真やコメント、レイアウトなどを工夫します。 ・社会の状況に配慮しながら、活動内容や開催方法等を保護者と一緒に検討します。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、日々の授業を軸に豊かな学校生活を送ることができるよう、学習環境を整えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の充実を図り、学習意欲の向上や基礎学力の定着につなげていきます。 ・個々の実態や指導形態に応じた教育活動を工夫し、展開します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会において、各教科等の特性に応じた取組や、教育時事的動向の共有及びその対応について取り組み、授業づくりに生かしていきます。 ・部会や研修（形態別、全体）を軸に、多角的な視点での児童生徒理解の充実を図り、個々の特性に応じた授業展開につなげていきます。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童生徒の実情や実態に応じた指導・支援を目指し、学校生活を始め、日常生活に生かすことができるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の「プロフィール表」を作成し、教員間で共有しながら支援を進められるようにします。また、保護者や関係機関との連携を図ります。 ・児童生徒の心身の状態に配慮し、それぞれの強みを生かせる場面設定を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、指導計画を基に「プロフィール表」を複数の教員で作成し、多角的な視点で児童生徒の支援を考えられるようにします。また、児童生徒の変容を保護者や関係機関に適宜発信し、連携しながら取り組んでいきます。 ・児童生徒自身が活動の成果を感じられるような場面設定を行い、児童生徒の自信につなげていきます。

<p>生徒指導部</p>	<p>・児童生徒が安心・安全に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校作りに努めます。</p>	<p>・避難訓練、保護者引き渡し訓練、シェイクアウト訓練の他、保護者との伝言ダイヤル活用訓練等を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。</p> <p>・情報モラル教室や交通安全教室等を通して、児童生徒の危機管理意識を高めていきます。</p> <p>・各部会での児童生徒のいじめ等に関する情報共有及び部間、関連分掌との連携を図ります。児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。</p>	<p>・各訓練の目的を明確に示し、訓練は基より学校生活全体における防災教育の充実を図ることで、防災に対する意識を総合的に高められるようにします。</p> <p>・警察署員を講師に招き、時事的な問題を取り入れた学びの場を設定します。また、現職研修で学校における危機管理の基本方針や本校の不審者対応マニュアルの確認や見直しを図り、児童生徒に安全かつ確かな支援ができるようにします。</p> <p>・日頃から職員間での情報共有を図り、いじめの早期発見に努めます。いじめ不登校対策委員会を開催し、いじめの防止、早期対応に学校全体で当たります。</p>
<p>保健体育部</p>	<p>・教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。</p>	<p>・児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底、共有しながら、より安心して安全な教育環境を整えます。</p> <p>・医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深めるなかで、児童生徒や教職員が、安心して学校生活を送ることができるように支援します。</p> <p>・日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。</p>	<p>・児童生徒の情報を職員で共有し、緊急時のスムーズな対応に備え、安全指導の徹底を図ります。</p> <p>・安心・安全な対応ができるよう、委員会等で十分に審議し、その情報を共有し、保護者や関係機関との理解と協力を得ながら全校体制で行います。</p> <p>・全児童生徒に毎朝の健康観察を行うと共に、給食配膳時も健康観察を実施します。各種便りやメール配信を介して、児童生徒保護者への情報発信に努めます。</p>
<p>進路指導部</p>	<p>・児童生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け、進路指導の充実に努めます。</p>	<p>・学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。生徒・保護者のニーズを把握し、必要な情報を的確に提供するとともに進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。</p> <p>・個々の志望を把握し、見学、体験、実習等の機会を多く設定したり奨励したりすることにより、多様な進学・就労への個別支援に対応できるように努めます。</p> <p>・希望する進路先・居住地関係機関に対し、保護者の理解を得た上で、生徒の病状や実態について情報提供することで生徒への理解を深めていただくとともに、合理的配慮が得られるよう努めます。</p>	<p>・就労、進学指導に関する情報収集に努め、学校行事等との関連を図りながら説明会や懇談を実施し、児童生徒、保護者に対しきめ細やかに情報提供をします。</p> <p>・連絡帳やアンケート等を利用し、生徒、保護者のニーズに合った情報を把握するようにします。ICTを活用し、分かりやすい説明や提示方法を心がけます。</p> <p>・希望する進路先・居住地の関係機関に対し、必要に応じて訪問するなど、より密な関係を構築できるよう積極的に働きかけます。</p>
<p>教育支援部</p>	<p>・児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。</p>	<p>・児童生徒の適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、必要な情報の提供を行います。</p> <p>・夏季公開研修として、医療と連携した研修会を企画し、地域の教育関係者に公開します。</p>	<p>・関係機関との連携や担当者との情報交換を密にし、地域に根ざした支援を提供します。また、校内支援ではスクールカウンセラーの積極的な利用を促します。</p> <p>・夏季公開研修については、近年の教育状況やニーズを把握し、児童生徒の支援・指導に役立つ内容を取り入れます。</p>
<p>教育情報部</p>	<p>・ICT環境を整備し、児童生徒の学び力、教師の指導力を効率よく引き出すための取り組みや、職員が業務を円滑に行うための取り組みを行います。</p>	<p>・教育系クラウドの環境を整え、校内教育や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保障ができるようにします。</p> <p>・校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。</p> <p>・他の分掌と連携しながら、新校務支援システムの運用を含め、業務の効率化を図ることができるよう、ICT環境整備を進めます。</p>	<p>・授業での効果的なデジタルコンテンツの活用や施設内教育、訪問教育を結んだ同時双方向型通信での授業に最適化した通信環境の改善と維持に努めます。</p> <p>・個人情報の取り扱いや安全に最大限に留意しながら、教育用クラウドの活用を進めることで、学びにおける時間・距離などの制約を取り払い、学校と家庭での切れ目ない学習を保証します。</p> <p>・他の学校の運用状況を参考にしながら、本校の実情に合うように新校務支援システムの設定や業務の効率化を行い、ICT環境の整備を進めます。</p>
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3 安全・安心な学校づくりができたか 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5 センター的機能の充実ができたか 6 仕事の効率化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか 		

